

GO TO SG ヤマグチ!!



切り開け!!

12月号で展開した山口支部応援プロジェクト「ぶちかませヤマグチ」。昨年11月には早速、下関のチャレンジカップで寺田祥が準優勝と奮戦、そして新期はA級選手も増えて意気が上がる。新たな年2025年、さらにその先へとSGへ進出する選手が増えてくればいっそう盛り上がること間違いなし!!



SG7S道



ぶちかませ
ヤマグチ
BUCHIKAMASE YAMAGUCHI

山口支部・SG戦線の現況

白井英治と寺田祥 両エースに続く フロントランナーたち

22年のグランプリ、ヒットで初の制覇に浸る白井英治



寺田祥は17年のメモリアルで初のSGを獲得

不動のものにしたのが、今村の愛弟子である白井英治だ。01年のダイビーで早くも優出。ほぼ毎年優出を重ねて、14年のメモリアルで悲願のSG初優勝を飾った。さらに22年の暮れには、師匠の今村も成しえなかったグランプリを制覇（山口支部としては第4回の福永達夫に次ぐ2人目）、賞金王にも輝いた。

この白井とほぼ同じ時期からSGに乗るようになったのが寺田祥だ。こちらは10回目の優出だった17年のメモリアルで初戴冠。20年の下関開催のメモリアルでも優勝し、さらに昨年11月の下関チャレンジカップでも準優勝と地元で強烈な存在感を見せつけている。

この辺で、次ページの表3と表4をご覧いただきたい。表3では最近2年間のSG出場状況、表4ではメモリアルにおける山口2場の推薦出場選手がわかる。

寺田と同年（昭和53年）の生まれが谷村一哉。そして1年後輩の54年生まれが原田篤志と吉村正明。この世代には好人材が揃っている。

谷村は11年のグランプリシリーズが初SGで、いきなり準優3着と健闘。14年メモリアルで優出を果たし3着。16年にはGI2勝と実績を重ねてきた。メモリアルには既に10回もの出場歴がある。

今村豊から白井英治へ

まずは山口支部におけるSG戦線とのかかりについて、その大まかな流れと最近数年の状況を把握していこう。

ボートレースが始まって長らく、山口支部にはSGで活躍する選手が少なかったが、1980年代に入って、突如として今村豊というスーパースターが出現する。今村はそのデビュー間もない頃からインパクトがあまりに大きいが、実は息の長さも比類なく、40年近くSGの舞台で活躍を続け、00年以降もSGで2回優勝。そしてオールスター35回、メモリアル34回という出場回数は、いずれも史上最多である。

その今村の後を継ぐように、山口支部のSGレギュラーを早々と

表1 山口支部・現役選手のSG通算成績（*1997年5月1日以降）

登番	選手名	出場節数	出走回数	1着数	勝率	優出	優勝
3081	岡本 慎治	70	539	104	7.99	7	0
3176	長谷川 巖	2	16	2	7.06	0	0
3427	大賀 広幸	35	276	42	7.63	3	0
3897	白井 英治	128	1000	218	8.04	36	3
3942	寺田 祥	129	1021	181	7.31	15	2
3961	谷村 一哉	22	173	21	6.76	1	0
4045	佐々木裕美	1	8	1	4.88	0	0
4064	原田 篤志	9	72	10	6.58	1	0
4108	吉村 正明	13	108	11	6.19	0	0
4237	大峯 豊	17	129	7	6.40	0	0
4324	海野康志郎	3	25	4	6.96	0	0
4361	柳生 泰二	4	32	5	6.72	0	0
4980	佐々木完太	1	8	1	4.88	0	0

※12月15日時点

表2 山口支部選手による2000年以降のSG優勝

年月	場	レース名	優勝選手
2004/3	福岡	第39回クラシック	今村 豊
2010/8	蒲郡	第56回メモリアル	今村 豊
2014/8	若松	第60回メモリアル	白井 英治
2017/8	若松	第63回メモリアル	寺田 祥
2018/6	徳山	第28回グランドチャンピオン	白井 英治
2020/8	下関	第66回メモリアル	寺田 祥
2022/12	大村	第37回グランプリ	白井 英治

優出歴もある谷村と原田

Go To SG ヤマゴチ!!

表3 山口支部選手・22年GP以降でのSG出場状況(*メモリアルは表4参照)

登番	選手名	2022年		2023年								2024年						
		GPS	GP	クラシ	オール	GC	OC	ダービー	CC	GPS	GP	クラシ	オール	GC	OC	ダービー	CC	GPS
3897	白井 英治		優勝						準④	出場		出場			出場	準⑤	準③	
3942	寺田 祥	出場				準③	出場	準④	出場	準⑥		出場	出場	出場	出場		優②	出走
3961	谷村 一哉	出場																
4064	原田 篤志	出場																
4237	大峯 豊	出場		出場				出場							出場			
4324	海野康志郎																	出走
4361	柳生 泰二										準③							出走
4980	佐々木完太			出場														

(*空欄は不出場、「出場」は予選敗退、2024年のGPSの結果はP.150を参照)

表4 最近5年の山口2場・メモリアル出場選手

年	レース場	登番	選手名	出場回数	成績
2020	徳山	2992	今村 豊	13年連続34回目	出場
		3942	寺田 祥	17年連続19回目	優勝
	下関	3897	白井 英治	2年ぶり13回目	優⑥
		3961	谷村 一哉	2年ぶり8回目	出場
		4064	原田 篤志	8年ぶり2回目	出場
2021	徳山	3897	白井 英治	2年連続14回目	優③
		4064	原田 篤志	2年連続3回目	出場
	下関	3961	谷村 一哉	2年連続9回目	出場
2022	徳山	3942	寺田 祥	2年ぶり20回目	出場
		4064	原田 篤志	3年連続4回目	出場
	下関	3897	白井 英治	3年連続15回目	優F
2023	徳山	4361	柳生 泰二	初出場	出場
		4237	大峯 豊	4年ぶり3回目	準③
	下関	3942	寺田 祥	2年連続21回目	準④
		3961	谷村 一哉	2年ぶり10回目	出場
2024	徳山	3942	寺田 祥	3年連続22回目	出場
		4361	柳生 泰二	2年連続2回目	出場
	下関	3897	白井 英治	2年ぶり16回目	出場
		4237	大峯 豊	2年連続4回目	出場



ダービーで優出経験のある原田篤志



既にSGを22節走っている谷村一哉

原田は12年のメモリアルでSG初参戦。15年ダービーでは優出3着と大暴れをした。23・24年と出場が成らなかつたので巻き返しを期す。吉村はこの三者の中では最も早く、08年のクラシックでSGに初登場している。

両エースに続く大峯豊

白井と寺田の両エースを除けば、ここ数年で最もSGへ出場しているのは大峯豊だ。10年の中国地区選優勝からステップアップして、同年のオーシャンカップでSG初出場をかなえた。そして18年以降、7年連続でSGの舞台に登場している。年間優勝5回以上という年が8回もあり、毎年のようにクラシックのボーダー付近にいる安定感が持ち味だ。

昨年の活躍が光ったのは海野康

2017年4月からナイター場となった下関の水面



志郎と柳生泰二だろう。海野は16歳でデビュー、19年2月の中国地区選を豪快にまくって勝ち、その年のクラシックへ進出。昨年は絶好調で、夏以降はGIでも優出を重ねてきた。

柳生はA級になるのは早かったが、SG出場にはあと一歩届かない時期が長かった。しかし21年にV6。その後も高勝率をキープして22年のダービーでSG初出場へ。昨年のクラシックはあと一歩で優出(準優③)に迫った。海野と柳生は年末のグランプリシリーズにも駒を進めている。

そして一昨年3月のクラシックには、山口支部待望の若手がSGに乗ってきた。22年5月のモーターボート誕生祭(大村・GII)を25歳で制した佐々木完太だ。その後の走りには堅実性も加わり、将来のエース候補といえよう。

スタート力健在の吉村正明



吉村正明

若い時から売り出し、A1級になりたての05年にGⅡ（大村の競艇祭＝現在のモーターボート誕生祭）を制したのが吉村正明。その後も約20年、ほとんどの期をA1級で戦っている。08年には児島周年を勝ち、SGもオールスターとグランプリ以外は出場経験がある。昨年末にマスターズ世代に突入したが、スタートの切れは健在。昨年のデータ（12月14日現在）では、山口支部で最も早いスタート順位を誇っている。

昨年未だにマスターズ世代に突入したが、スタートの切れは健在。昨年のデータ（12月14日現在）では、山口支部で最も早いスタート順位を誇っている。

ケガを克服し初出場を目指す



長尾章平

A1級のキャリアは長いが、まだSG出場経験のない中堅選手も何人かいる。長尾章平や森野正弘がその例だ。長尾は08年から10年以上A1級の常連だったが、19年10月のケガで約半年欠場。そこからの回復に時間を要するも、連続A1級と復活を示している。森野は新期

で10期連続のA1級。しかし23年に手術が必要なほどのケガをして、実戦に復帰した経緯がある。スタートが早く展示からタイムを出すタイプで、SG参戦の機は熟した！

竹田辰也らには捲土重来を期待



竹田辰也

新期によもやのA2級落ちを喫した強豪には巻き返しを期待したい。SG常連だった谷村一哉は15年・31期ぶりのA2降級。精鋭が揃う82期（菊地孝平ら）の“山口代表”として、まだまだ踏ん張ってもらいたいところ。竹田辰也はこの5年ほどの間に7点勝率

を3回もマークしていて、次のSG出場候補No.1という存在だったが、前期はよもやの不調に。波の大きいタイプではあったが、また立て直してくることだろう。

底力を見せる!! 中堅・ベテラン陣

新期はA級・A1級とも増加!



向井美鈴

元日から適用の新期級別（2025年前期）では、山口支部のA級選手数が増えている。前期はA級が27名（A1級は13名）だったが、新期はA級が30名と3名、そしてA1級が15名と2名増えた。

初めてA1級昇格を果たしたのは清水愛海と島川海輝。森永隆と向井美鈴がA1級に返り咲いた。

表5 新期（2025年前期）山口支部の勝率順ランキング

新級	順位	登番	選手名	出走回数	1着数	勝率	優出	優勝
A1	1	4324	海野康志郎	142	48	7.48	12	3
	1	3897	白井 英治	116	31	7.48	6	1
	3	4361	柳生 泰二	140	43	6.90	5	1
	4	3942	寺田 祥	118	30	6.88	4	1
	5	4237	大峯 豊	123	38	6.87	8	1
	6	4601	森野 正弘	134	42	6.76	5	1
	7	5145	島川 海輝	137	40	6.60	5	2
	8	4985	井本 昌也	135	38	6.59	6	1
	9	4980	佐々木完太	96	26	6.55	4	2
	10	4264	長尾 章平	146	40	6.53	4	0
	11	4064	原田 篤志	116	34	6.42	3	0
	12	5163	清水 愛海	100	20	6.36	1	0
	13	4703	森永 隆	129	31	6.29	3	0
	14	4108	吉村 正明	105	29	6.26	3	0
	15	4017	向井 美鈴	141	34	6.21	2	0
A2	16	4239	竹田 辰也	127	35	6.02	4	0
	17	4950	高岡 竜也	134	35	6.01	4	1
	18	3961	谷村 一哉	141	31	5.99	4	1
	19	4817	渡邊 翼	134	22	5.98	1	1
	20	4014	片岡 恵里	96	20	5.86	1	0
	21	4263	武重 雄介	120	28	5.83	2	0
	22	3711	江本 真治	135	24	5.82	3	0
	22	4015	前野 竜一	130	21	5.82	2	0
	24	5146	野田 彩加	102	18	5.77	0	0
	25	4443	津田 裕絵	121	17	5.74	2	0

(*成績集計期間:2024/5/1~10/31、新級別は2025/1/1から適用)

Go To SG ヤマゴチ!!



ブレイク近し!
新世代軍

2度目の優勝がGIIだった佐々木完太



佐々木完太

吉村正明と同様に、デビュー2度目の優勝が25歳でGIIだった佐々木完太。その後も24年前期から新期まで3期連続で2回ずつ優勝をマーク、前期は10回の優出を重ねて初めて7点アップの勝率も残した。前途は洋々だ。

今年の注目度No.1!! 清水愛海

女子戦の枠を超えて、今年大きく注目されるのが清水愛海だ。昨年末には初優勝も飾り、上々のリズムで新年を迎える。女子の大レースでの活躍が期待され、GIやGII参戦も増えるはず。12月に下関で初優勝し、早ければ今年5月のオールスターなどSGへの道が大きく開けてくるはずだ。



清水愛海

清水の1期先輩だが、まだ21歳と若い野田彩加も伸びしろが大きい。こちらもA1級に昇格すれば人気が発爆して、やはりオールスターの候補となるか。



野田彩加

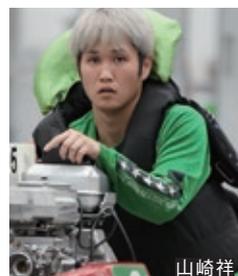
山口支部は先輩女子のレベルも高く、若手女子には恵まれた環境といえる。

スター候補生がジワジワと成長



高岡竜也

毎年末、各レース場で発表される「スター候補生」。20→21年と徳山で選出されたのが高岡竜也だ。当時はB1級だったが、22年後期からはA2級、さらに新期は初の6点台へ。A1級も見えてきた。

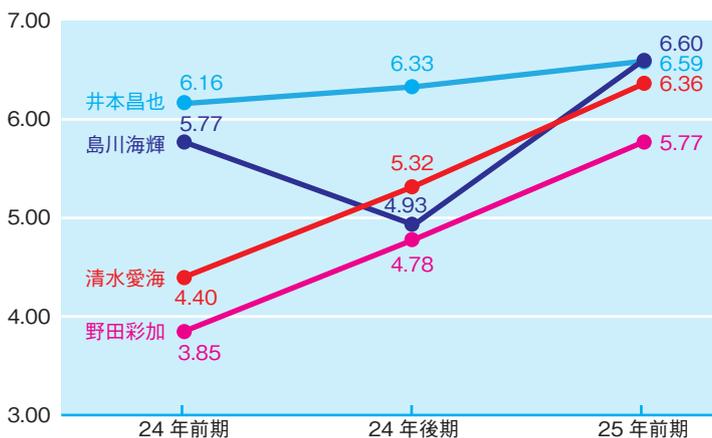


山崎祥

同じく徳山で23→24年と選出されたのが山崎祥。こちらも前期にはA2級へ。新期は惜しくもB1級へ後退したが、こちらも成長の跡が見える。

A1級になれば佐々木完太のようにトップルーキーに選出され、全国的な知名度も上昇。SGへの道も開けてくる。

表6 成長が著しい若手選手・最近3期の勝率上昇



勝負強さはピカイチの島川海輝

井本昌也は佐々木完太の同期で、派手さはないがジワジワと勝率を上げてきた。前期末に待望の初優勝を飾り、近況はさらにアップしている。

センセーショナルなのが島川海輝。前期、実に1.7近くも勝率を上げて、B1級からA1級へと飛び級。新人の優勝が激減している最近のポート界で、既に4回も優勝している勝負強さも圧巻だ。

前出の女子、清水愛海と野田彩加はともに、2期続けて勝率をほぼ1点ずつ上げている。



島川海輝

注目のSGポイントはー？
各タイトルで圏内の
海野康志郎
伏兵はジワリ上昇中の
井本昌也



今年はSGで大飛躍が期待される海野康志郎



昨年も優出ラッシュを見せていた大塚豊



この2年間の充実ぶりが光る柳生泰二

徳山開催のOCCを目標に！

では、山口支部における今年のSGの出場者候補や、出場に必要な得点をチェックしていこう。持ちポイントは24年12月14日現在の数字で、表7を参照してほしい。

まず新年第1弾のクラシックは、年明けに出場メンバーが発表になっているはず。残念ながら今回は山口支部からの出場はなさそうだが、後述するように2月の中国地区選で優勝すれば出場可能になる。

オールスターは、新期のA1級選手を対象に、1月中旬から約1か月間ファン投票が行われる。山口からは、寺田祥が昨年も含めて14回、白井英治が17回出場している。

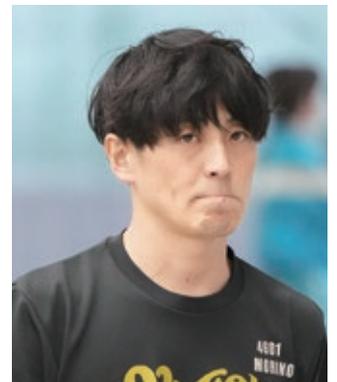
グラントチャンピオンは、昨秋のチャレンジカップで優出した寺田は当確。白井も36位（ポイントは122点／昨年のポイントインは90点）で十分圏内にいる。GPSとクラシックが選考対象だ。

今年の徳山開催となるオーシャンカップには、地元から1人でも多く出てもらいたいところ。ちなみにここ3年間のポードラインは20点で、11位の白井は当確。41位の海野康志郎は15点で、もうひと押しが欲しい。寺田は11点で71位だが、GIあるいはGIIで優出して上乗せできれば、まだ望みは十分ある。選考は4月末まで。

そろそろSG出場をかなえたい森野正弘

表7 2025年のSG 山口支部選手の出場可能性を探る

月	タイトル名	開催場	選考締切日	山口支部の選手の出場順位など		
				1位	2位	3位
3	クラシック	若松	2024年12月末	64位・海野康志郎	*中国地区選がラストチャンス	
5	オールスター	丸亀	2024年12月末	*1月18日～2月11日実施のファン投票上位		
6	グラントチャンピオン	戸田	3月末	寺田祥は当確	36位・白井英治	61位・大塚豊
7	オーシャンカップ	徳山	4月末	11位・白井英治	41位・海野康志郎	71位・寺田祥
8	メモリアル	若松	5月末	(表8参照)		
10	ダービー	津	7月末	18位・海野康志郎	66位・井本昌也	84位・白井英治
11	チャレンジカップ	福岡	10月末	1月からの賞金上位		
12	グランプリ(同シリーズ)	住之江	CC終了日	1月からの賞金上位		



Go To SG ヤマゴチ!!



地区選、オーシャンカップの舞台になる徳山

表8 メモリアル選考候補(4枠)

順位	登番	選手名	選考期間内の成績			徳山 勝率	下関 勝率
			勝率	優出	優勝		
1	3897	白井 英治	7.38	6	1	8.60	8.37
2	4324	海野康志郎	7.21	11	1	7.31	7.44
3	3942	寺田 祥	6.90	5	1	7.48	7.89
4	4985	井本 昌也	6.78	7	1	6.26	6.40
5	4601	森野 正弘	6.70	6	1	6.57	6.76
6	4237	大峯 豊	6.69	8	2	7.35	7.47
7	4980	佐々木完太	6.62	6	2	6.02	6.54
9	4361	柳生 泰二	6.60	4	1	7.22	7.34
11	5163	清水 愛海	6.46	2	0	4.73	4.89
12	5145	島川 海輝	6.43	3	1	4.23	5.28

*選考期間内成績:2024/6/1~12/10

*徳山及び下関勝率:2021/12/1~2024/11/30



ダービー出場が視野に入る井本昌也

メモリアルの出場権争いは!?

続くメモリアルでは、山口支部からは徳山・下関から2人ずつ、計4人が推薦で出場できる。表8はその候補選手たちだ。さしあたり昨年の勝率順に並べたが、過去の実績や将来への期待、地元への貢献度など総合的に考慮される。順当なら、白井と寺田は今年も当確か。昨夏からキャリアハイで突っ走る海野も有力だ。難しいのは最後のひと枠だろう。現勝率で上回る井本昌也と森野正弘はまだSG経験がない。逆に大峯豊と柳生泰二は、ここ2年ほどSGに出場して実績を作りつつある。若手の旗頭・佐々木完太も、この春に追い込めれば可能性がある。

ダービーには、海野は大きなリズムダウンがなければ初出場がないそう。井本はいつの間にか66位まで上がってきた。白井は84位とはいえ、その底力からして圏内に入ってくるに違いない。

表9 2025年2月の中国地区選(徳山)に出場する山口支部の選手

登番	選手名	年齢	前級	新級	勝率	優出	優勝
3711	江本 真治	50	A2	A2	5.94	6	0
3942	寺田 祥	46	A1	A1	6.98	11	2
3961	谷村 一哉	45	A1	A2	6.24	10	2
4017	向井 美鈴	44	A2	A1	5.84	3	0
4045	佐々木裕美	45	A2	A2	5.46	6	1
4064	原田 篤志	45	A1	A1	6.16	6	0
4108	吉村 正明	44	A1	A1	6.53	6	1
4237	大峯 豊	41	A1	A1	6.85	14	2
4239	竹田 辰也	40	A1	A2	6.26	12	0
4264	長尾 章平	39	A1	A1	6.44	6	0
4361	柳生 泰二	40	A1	A1	6.83	10	2
4601	森野 正弘	39	A1	A1	6.89	8	2
4703	森永 隆	36	A2	A1	6.21	3	0
4950	高岡 竜也	31	A2	A2	5.73	5	1
4980	佐々木完太	28	A1	A1	6.80	12	3
4985	井本 昌也	27	A1	A1	6.54	10	1
5145	島川 海輝	21	B1	A1	6.00	6	3
5146	野田 彩加	21	B1	A2	5.29	0	0
5163	清水 愛海	25	B1	A1	6.03	2	0

(*成績集計期間:2024/1/1~12/10)



A1級カムバックを果たした森永隆

注目!! 徳山開催の中国地区選手権

2月8日から徳山で開催される中国地区選手権。今回は例年以上に山口勢19名の奮起が期待される。何とんでもこの1戦は、クラシックへのラストチャンスという意味が大きい。ここまで山口支部のクラシック出場確定者はおらず、支部的にもゼロは避けたい。とくに毎年コンスタントにSGに出場してきた大峯豊や、ここ2

年で地力アップが著しくSG優出の可能性も見せてきた柳生泰二は、ここを勝つてぜひ出場権を得たいところ。

支部のエース格・寺田祥にとつては、徳山開催のオーシャンカップに出るために重要な1戦。ここで優出すればオーシャンカップのポイントを大きく稼げる。

佐々木完太と井本昌也の120期コンビは、そろそろGIに手が届く力を蓄えてきた。

さらに、一昨年の全国地区選を思い出してみよう。中村日向と末永和也の2人が立て続けに500番台GI覇者となり、同時にSG初出場も果たした。今年の島川海輝や清水愛海がいきなり大暴れしても、全く不思議ではない。